

**製品名: BAI-1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07451**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	174kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BAI1
別名	BAI1; Brain-specific angiogenesis inhibitor 1
遺伝子 ID	575.0
SwissProt ID	O14514
免疫原	抗血清はヒト BAI1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 691-740

**背景**

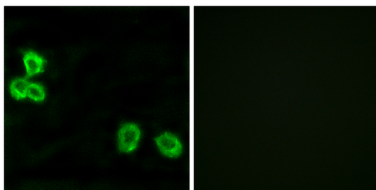
血管新生は、新生血管の成長を刺激する因子と阻害する因子の局所的なバランスによって制御され、通常の生理学的条件下では抑制されます。血管新生は固形腫瘍の成長と転移に不可欠であることが示されている。腫瘍細胞は成長に必要な血液供給を得るために、

強力な血管新生能を持ち、誘導因子の分泌増加と内因性抑制因子の産生減少の結果として、新しい血管を誘引します。BAI1 はイントロン内に少なくとも 1 つの「機能的な」p53 結合部位を含み、その発現は野生型 p53 によって誘導されることが示されています。脳特異的な血管新生阻害遺伝子として他に BAI2 と BAI3 が 2 つあり、BAI1 と同様に組織特異性と構造を有しますが、p53 によって転写制御されるのは BAI1 のみです。BAI1 は、セクレチン受容体ファミリーのメンバーであると仮定されています。ドメイン:TSP1 リピートは、BFGF によって誘導されるラット角膜の in vivo 血管新生を阻害します。機能:アポトーシス細胞の貪食を促進するホスファチジルセリン受容体。脳における血管新生の強力な阻害剤である可能性があり、神経膠芽腫の抑制における p53 シグナルのメディエーターとして重要な役割を果たす可能性があります。脳における細胞接着およびシグナル伝達に機能する可能性があります。誘導:p53 による。類似性:G タンパク質共役受容体 2 ファミリーに属します。LN-TM7 サブファミリー。類似性:1 つの GPS ドメインを含みます。類似性:5 つの TSP タイプ 1 ドメインを含みます。細胞内位置:細胞間接着部位に集中している可能性があります。サブユニット:ELMO1 および DOCK1 と相互作用します。ELMO1 および DOCK1 に結合すると、貪食を促進するモジュールとして機能する可能性がある(類似性に基づく)。MAGI1、MAGI3、BAIAP2、PHYHIP と相互作用する。組織特異性:脳で特異的に発現する。一部の神経膠芽腫細胞株および癌組織では発現が低下しているか、発現が全くみられない。アストロサイトでは発現しない。

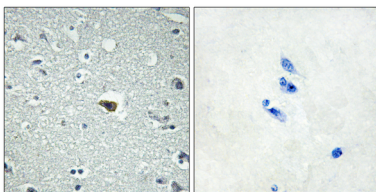
## 研究分野

p53;

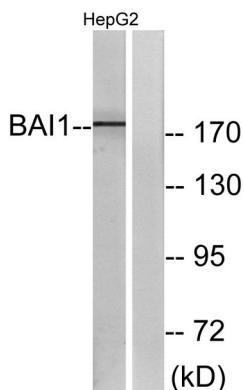
## 画像データ



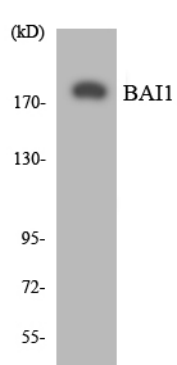
BAI1 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



BAI1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



BAI1 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



BAI1 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウエスタンブロット分析。